

クラス	専門演習 102	担当教員	小倉美津夫
		テーマ	教育および英語教育とそれらの問題点
		著書・論文 研究課題等	<p>著書・論文：「グラフで見るアメリカ社会の現実」（学文社）、「表現力を伸ばす英語の指導—Aural-Oral Practice によって」、「英語 I の効果的指導法—4 技能のバランスのとれた教科指導」、「自己表現力を高める英語学習指導法改善に関する研究」、「アメリカにおける School Discipline の研究」等</p> <p>研究課題：英語教育指導法改善に関する研究、コミュニケーション活動を重視した英語教育指導法、英語教員の成長を促す支援のあり方に関する研究など</p>
<b>ゼミナール概要</b>			
キーワード：教育、自己教育力、英語力、外国語学習法、英語教育指導法、達成感、つまずき			
<p><b>目的、内容、方法等：</b></p> <p>対象：教職履修者及び教育に関心があるものと将来教育関連企業に就職を考えているもの 現代は教育に関する事故や事件が毎日のように起きている。外から見れば、何事もなく順調に教育が営まれているように見える。しかし、家庭や学校での教育は課題が山積みの状態である。「生きる力」、「確かな学力」、「豊かな心と健やかな体」、「思考力、判断力、表現力の育成」など重要なキーワードに関して、学校での具体的取り組みはあるが、保護者や地域住民からはその姿が見えないでいる。21 世紀を担う子供たちをどう教育していくとよいのか、学習意欲の低い生徒たちのモチベーションをどう高めていくとよいのかなど研究したい。</p> <p>さらに、国際の学部での学びをもとに、日本の英語教育史において劇的な変化を起こしつつある英語教育についての研究も進めていく。現在、小学校 5 年生・6 年生が週 1 時間外国語（英語）活動を通してコミュニケーション的な英語の素地を養っていることや高等学校での英語の授業は英語で行われていることも劇的な変化例である。</p> <p>中学校での英語教育、高等学校での英語教育についても研究分野は広く、提案すべき事柄も多く、研究ターゲットとしている。たとえば、中学校で、英語が嫌いになったのは 1 年生の後半が最も多く、次いで 2 年生の前半であると報告されている。児童・生徒たちはどこでつまずき、教師たちはその生徒たちのつまずきにどう対処しているのか、どう対処すべきなのかを文献やフィールド調査を通して過去の事例や現在の実態を探り、今後の英語教育の望ましい形を追求することが考えられる。もちろん、英語の語用論、文体論、英語の比喩など英語そのものの研究も可能である。演習中に必要があれば、コミュニケーションを支える文法についても学習を進める。</p> <p><b>授業計画（スケジュール）：</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・文献学習・フィールド調査等、グループ討議や発表を通して、学習を進める。</li> <li>・テーマ設定：基本的には個人ごとに設定しますが、共同研究でも構いません。</li> <li>・ゼミでは、学生による問題提起とディスカッションの機会を多く持ちます。</li> <li>・場合によっては、ゼミ生全体でひとつのテーマについて研究することもあり得ます。</li> </ul> <p>テキストは適宜紹介します。</p>			
<b>担当教員からのメッセージ</b>			
英語教員を志望する人や教育全般・英語学習に関心のある人たちの協働学習と研究の場です。集まれ、地道に、着実に勉強を継続できる学生のみなさん！			